

平成 25 年度第 1 回経営会議概要

- 1 開催日時：平成 25 年 7 月 2 日（火）10:25～11:10
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題 1 秋の政策協議の進め方について

●大橋企画課長（資料 1-1 に基づき説明）

「秋の政策協議」の目的、議題、日程等について、説明する。

「秋の政策協議」は、平成 25 年度の上半期の取組の進捗状況及び下半期に向けた取組方向を確認するとともに、平成 26 年度に向けた取組方向として、平成 26 年度三重県経営方針の策定や重点化施策（仮称）の選定につなげる検討を行う場であり、予算編成プロセスの中の一回目の予算協議の場として位置づける。

昨年度と同様、プレ協議（非公開、個別協議）と本協議（公開、各部署長が一堂に会した協議）の 2 段階のプロセスで実施する。

協議資料は、基本的にオールインワンシステムを用いる。

協議日程について、長時間に及ぶため、スケジュール調整をお願いしたい。

●大橋企画課長（資料 1-2 に基づき説明）

重点化施策（仮称）の選定について、基本的な考え方、選定方法について、説明する。

選定方法の各部署の重要度のみで判断した施策ではなく、来年度県政を全体的にみただ中で重要な課題について、上限 2 施策（部内局のある場合は 3 施策）でエントリーしてほしい。

☆鳥井子ども・家庭局長

重点化施策（仮称）の選定にあたって、56 本の施策の中から選定するとあるが、少子化対策を考えた場合、ビジョンの現行の政策体系の中ではマッチしていない。部局内で 3 施策程度では対応が難しいので、柔軟に対応してもらえるのか。

●大橋企画課長

重点化施策（仮称）は、予算編成プロセスの見直しの議論の中で整理した内容であり、施策単位で選定する。また、56 施策の中から選定するとあるが、予算編成のフレームとの関係もあるので、3 施策程度としている。

☆鳥井子ども・家庭局長】

少子化対策にかかわる施策をまとめてエントリーしてもよいのか。

●大橋企画課長

各部署がタグをくんで、少子化対策に関わる施策をエントリーしていただいてもよい。

☆石垣副知事

重点化施策（仮称）は、本年度の経営方針にある「社会情勢の変化等に伴い、特に注力する項目」に該当するのか。

●大橋企画課長

戦略性、緊急性の視点では、例えば国の成長戦略とか少子化対策のような内容も想定しており、そういう項目も含めて検討してほしい。

☆植田副知事

重点化施策（仮称）の選定の視点として、新規性は考慮しないのか。これまでの延長線のものも含むのか。

●大橋企画課長

戦略性、緊急性の中には、新規性という要素も含んでいる。

☆石垣副知事

各部局長はとまどっているように思う。

☆植田副知事

施策の中のどこに加算をするという考えなのか。

●大橋企画課長

重点化施策（仮称）に選定された場合、その施策の取組の全てがA+になるのではない。その議論の中で新規性も加味される。現時点では新規性のものだけを選定するという基準は設けるつもりはない。

●山口戦略企画部長

選定にあたっての3つの視点以外のアプローチがあれば、意見をいただきたい。

☆土井県土整備部長

重点化施策のねらいがわかりにくい。昨年度の「社会情勢の変化等に対応するため、特に注力する項目」の議論は、わかりやすかった。

施策単位になると、選択・集中プログラムとの違いがわかりにくい。

☆北岡健康福祉部長

選択・集中プログラムは、4年間特に資源を集中的に投入するとしているのに、予算の上積みがなく、施策単位で一部の取組に予算の上積みを行うとのことだが、考え方がよくわからない。

●山口戦略企画部長

毎年、施策の中での取組には濃淡があるので、そこにA+の加算を行う。

選択・集中プログラムについては、各主担当部局長がメリハリをつけるこ

とになる。

☆山川雇用経済部長

今のビジョン行動計画の枠組みにはない課題に対応するというのであれば、理解できる。戦略企画部として、こういうテーマに関して施策をエントリーしてほしいと言えよではないか。

☆土井県土整備部長

昨年度の議論のほうがわかりやすかった。

●稲垣総務部長

予算編成プロセスの見直しの中で、まず昨年度、ミクロの見直しとして、A、B、Cの優先順位をつけた。本年度、マクロの見直しとして、重点化施策を設けることになった。施策単位で、重点配分を行うことになるが、施策の枠の中で、重点配分を行うことになる。どの事業にその配分を充てるかは、部局長のマネジメントになる。

☆北岡健康福祉部長

重点化施策と選択・集中プログラムとの関係がわからない。

☆山川雇用経済部長

施策単位で、A、B、Cの優先順位をつけるということではないのか。

●山口戦略企画部長

重点化施策（仮称）は、あくまで昨年9月「予算編成プロセスの見直し」について、議会に説明した内容を具体化したものである。

☆土井県土整備部長

道路と河川の施策のどちらを優先すべきかというのは判断が難しい。

●山口戦略企画部長

難しいのはわかるが、整理できないのであれば、エントリーが難しいのではないか。

☆鈴木知事

本日は、秋の政策協議の進め方については、了解ということでよいか。

重点化施策（仮称）の選定については、ここにいるメンバーが理解できなければ、議会や県民の皆さんは理解できないと思うので、共有幹事会、経営会議においてあらためて整理してほしい。

●稲垣総務部長

ビルドの議論が先行したが、中期財政見直しでは、来年度100億円の財源不足が生じるし、国の骨太の方針においても来年度の地方財政計画も、相当絞られる方向である。そのため、予算の廃止・見直しの議論についても、真

剣に検討してほしい。また、本年度の予算についても、12月補正までに効率的な執行をお願いしたい。

議題2 不適切な事務処理に係る注意喚起

●松田総務部副部長（資料2に基づき説明）

4月以降、事務処理のミスが頻発しているので、注意喚起をお願いしたい。

☆渡部廃棄物対策局長

（ミスなどを）言わなくなる恐れもあるので、何かあったら、必ず報告しよう、情報共有しようということも付け加えてほしい。

●松田総務部副部長

そのようにする。

☆渡邊危機管理統括監

4月から6月は、年度当初という時期的なこともあったかも分からないが、同じようなことが課をかえて起こっている。他所のことでなく、自分のこととして共有をしっかりとしてほしい。報告がなければ、もっとひどいことになっていくので、組織として対応していくことを組織風土とするマネジメントをお願いしたい。

☆鈴木知事

こういう事が起こると、普段いい事業、取組をしていても帳消しになってしまう。職員のモチベーションが下がってしまっただけでなく、改めて注意喚起をするものである。

失敗を許容するという考えもあるかもしれないが、影響がどこに及ぶかを考えて対応してほしい。部局長が、すべてをチェックすることは不可能なので、仕組みを考える、仕組みが回っているかチェックするということを意識してほしい。班長にも意識を高く持ってもらい、部局長の熱をうまく伝えて意識の高い職員を増やしてほしい。